

CKJSだより

第71号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

ありがとうの哲学

時々、電車内でお年寄りに席を譲る若者を見ます。その時の会話は「どうぞ」「ありがとう」です。そんな光景を見ると爽やかな気持ちになりますが、現実には優先席に若者が座りスマホに熱中し、前に立っているお年寄りをチラッと見ても席を譲る気配がないことが多いものです。

「どうぞ」は思いやり、「ありがとう」は感謝の心を表しています。幼少期はまだ自立しないから、「ありがとう」という言葉を教えることが重要であり、成長と共に他人への思いやりの心を育てる意味でも「どうぞ」という言葉を重視すべきだと思いますが、人生初期の言語教育のカリキュラムが定かではありません。赤ちゃんが産まれたら、〇ヶ月で「マンマ」を最初に口にし、続いて「ママ」で、「パパ」はその後といったような観察調査は心理学ではなされています。しかし、幼児期にどういう言葉を教えるべきかという初期言語教育の研究は見られません。



心は言葉で育つことを思えば、「ありがとう」が第一です。「ありがとう」が身に付いたところで、次は「どうぞ」を教える。ここで重要なのは「どうぞ」の真意です。「どうぞ」は思いやりの心を育てるだけではありません。相手から「ありがとう」と言われるような人間になるべきだという意味です。「ありがとう」と言ってるだけでは感謝の気持ちが「甘え」の気持ちに同化し、そのうち「ありがとう」も言わなくなるかもしれません。いや、現実には、お金を払ったのだから当然と思い、「ありがとう」と言わない人もいます。

言葉は人格の表現であるから、ただ道德の授業で徳目を並べるより、言葉で心の教育をするべきです。例えば、「ありがとう」には二つの意味があると教えます。第一は「感謝」。第二は、自分も他人から感謝され、「ありがとう」と言われるような人間にならないと自覚し、精進努力する芽を育てることです。

12月23日と30日は冬休みのため授業はありません。また、12月20日から1月4日まで事務室・図書室は閉室となります。なお、年明けの授業は1月6日からとなりますので、ご確認のほどよろしくお願ひします。